

オジロワシ・オオワシクイズ

Q1 オオワシはオジロワシより大きい。

答え：○ オオワシの全長は雄で88cm、雌で102cm、翼開長は220～245cm、オジロワシの全長は雄で80cm、雌で95cm、翼開長は180～230cmと名前の通りオオワシの方が大きい。また、オオワシやオジロワシは雄よりも雌の方が大きい。

Q2 オオワシはオホーツク海周辺にしかいない。

答え：× オオワシは渡り鳥で、繁殖地はカムチャッカ半島、アムール川下流域、サハリン北部などロシアに属する地域で、冬は越冬のためオホーツク海、日本海など北日本に飛来する。

Q3 オジロワシはオホーツク海周辺にしかいない。

答え：× ヨーロッパからロシアのオホーツク海沿岸までのユーラシア大陸、カムチャッカ半島、千島列島、樺太、日本と幅広い範囲で生息する。

Q4 ではなぜ、冬になるとオジロワシやオオワシが越冬のため知床に渡ってくるのか。

答え： 餌である魚（シロザケ）、カモメ類が多いから。また、羅臼町で冬期に行われるスケトウダラ漁の存在も大きい。

Q5 ではなぜ、シロザケやカモメなどの海鳥が多いのか。

答え： シロザケやカモメの餌となる小魚や海鳥の餌となるオキアミ（動物性プランクトン）が多いから。食物網の始まりとなっているアイスアルジー（植物性プランクトン）は流氷の裏に付着しており、春になり流氷が溶け出すとともに爆発的に繁殖し、それが動物性プランクトンや小魚等の餌になり、そしてそれらがシロザケやカモメ・・・オジロワシ、オオワシとつながっていく。そう考えると知床の生態系は流氷が影響していると言える。

Q6 知床へやってくるオジロワシ・オオワシの数が減っているのはなぜか。

答え： スケトウダラ漁の漁獲量の減少に関係している。羅臼海岸で冬期に行われるスケトウダラ漁の際に、網から外れた魚はオジロワシ・オオワシにとって簡単に捕れる餌であり、また、船周辺にある流氷は、止まり場として良い場所であった。

1980年代に入って羅臼海岸で冬期に行われるスケトウダラ漁の漁獲量が急激に伸びたことにもない、知床へやってくるオジロワシ・オオワシの数も増加した。

しかし、90年代にスケトウダラの漁獲量が急に減少し、時期を同じくして羅臼海岸のオオワシの数が減少していった。それまで羅臼海岸に集中していたオジロワシ・オオワシは、ウトロ海岸や道東だけではなく他の場所で増えてきており、水産加工場やごみ処理場にいることもある。